

週刊 武四郎

●毎月第二週は、
松浦武四郎と北海道に
ついてご紹介します

監修・松浦武四郎記念館

第23号

2018年(平成30年)9月12日(水)
発行・松阪市

蝦夷地探検の荷造りメモ

武四郎さんは、故郷の幼なじ

みで津の豪商川喜田石水には生

涯多くの手紙を出しました。川

喜田家は資金援助もしていたの

で報告としての意味合いもあっ

たのでしよう。筆まめな武四郎

さんは、安政三(一八五六)年

幕府の役人として樺太に行く時

の準備についても書き送ってい

て、これを読むと当時の一行の

食糧事情や支度についてがよく

わかります。一行は十八人、そ

のうち案内役のアイヌ五人が含

まれていましたが、和人とまっ

たく同じ扱いをしています。こ

の十八人分の七日間の食料とし

て用意したのは……

白米 七斗五升六合
(毎日一人六合)

焼味噌 三百七十八個
(毎日一人三つ)

梅干 七百五十六個
(毎日一人三つ)

一、装束は半纏・股引・下着・
綿服、羽織なし、笠三尺手拭・
足袋・桐油類、草鞋は腰に銘々
附くべし

夜具は不要ゆえ、綿入一枚ず
つ用意すべし

沢庵大根漬 三十五本
(毎日一人六個)

(一日五本ずつ)

焼味噌は味噌玉にして湯に溶

かして即席味噌汁にしました。

魚や鹿などのタンパク源は現地

調達、朝昼晩の三食だとすると、

一食につき米は一人二合、味噌

玉一つ、梅干し二個、沢庵適宜

……ということになります。米

が一食二合というのは、意外に

ボリュームある感じがしますが、

不測の事態を考慮して多少多め

に見積もったのかもしれませんが、
持ち物メモも残されています。



▲探検する武四郎と、樺太(今のサハリン)で暮らしていた人たち
「北蝦夷余誌」より(松浦武四郎記念館蔵)

一、茶碗二つ・箸二膳銘々懐

中すべし

杖は勝手次第

一、小鍋三・やかん一つ用意

すべし

その他、鑑燭や火口、鉄砲や

鉈、文房具、薬など以外は、「無

用の品、一切持越べからざる事」

という内容です。これは当時筆

写されてあちこちに広まったよ

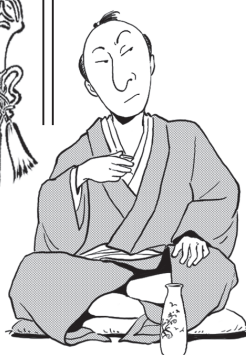
うで、坂本龍馬関係の資料の中

にもほぼ同文のメモが残されて

います。蝦夷地の探検は誰もが
興味津々だったのでしょうか。

松浦武四郎 (1818～1888)

三重県松阪市出身。幕末から明治にかけ
ての探検家、著述家、蒐集家。蝦夷地(今
の北海道)を6度にわたり探査し、アイ
ヌの人々と交流を深め、蝦夷地の詳細
な記録や地図を作成した。維新後、蝦夷
地に代わる新たな名称として「北海道」
のもととなる「北加伊道」を含む6案
を政府に提案したことから「北海道の名
付け親」と称される。



文・河治和香 装画・りんたろう 編集・細山田正人 デザイン・DOMDOM

●松浦武四郎を主人公とした小説『がいなもん 松浦武四郎一代』(河治和香著)が、小学館より好評発売中!